

教材『解釈のちから』による法教育授業の教育効果の検証

—実施アンケートから見えてくるもの

金源 成大（日本司法書士会連合会 法教育推進委員会）

福岡県司法書士会が作成した法教育教材『解釈のちから』の学習効果測定を報告する。

このアンケートは授業実施前（アンケート A）と実施後（アンケート B）によって構成され、9歳から12歳まで（小学校4年生から6年生まで）を対象に合計273通のアンケート結果を分析した。

アンケート結果を数値化することにより、授業の前後で本教材伝えられた解釈技法が子どもたちの考えに影響を与えたのかどうかを考察する。

また、本教材の対象年齢は11歳（小学校5年生）以上であるが、9歳から12歳までのアンケート結果を分析することにより、発達年齢に学習効果の差が見られるのかも合わせて検討し報告する。

なお本発表は、「第2分科会発表①『解釈のちから』のチカラ—教材製作から10年を経て」（福岡県司法書士会）と関連したものであるため、本発表の内容の理解を深めていただくためにも続けて受講されたい。

やっています！
法教育！

.....
～3つの「ちから」を育む教材～

